

宇光軍人

vol.76

農業の道へのきっかけ

青い空と海。モタレノ瀬戸に架かる戸馳大橋を渡ると、そこは洋ラン生産で有名な戸馳島。若き生産者の中川裕史さんも洋ラン農家に生まれ育った。

そんな中川さんは、「農業に携わる親の苦労を見ていたので、高校を卒業するまでは、実家の洋ランやミカン農家を継ぐとは思っていませんでした。」と話す。

高校野球をしていた時期に大けがをしたのをきっかけに理学療法士を志し専門学校へ進学。

たのも、いろんな人のおかげです。会いたいと思った人に会うことができ、知り合いが増えていく。自分は本当にラッキーな人間だと思っています。」

戸馳島全体を元気にしたいと、Tobase Laboを発足して4年目。人との出会いを大切にしている中川さんは

衝撃の味

成績も良かったが、徐々に自分以外でもできるのではないかと考えるように。「誰にもできないことをしたいという夢がありました。中途半場な気持ちで理学療法士にはなれないという思いが強くなって。」

留学。パッションフルーツとアボカドに出会った。大学に行きつつ、ナーセリーで研修も積んだ。

「いろいろな店で購入し、納得のいく味を見つけないと試しましたが見出せませんでした。」

そこで、パッションフルーツを栽培するところから自分できなないかと考え、試行錯誤し、念願の商品化にこぎつけた。

出会いの力

「衝撃を受けた味を実現でき

「戸馳に関わる人をもっと増やしたい、戸馳のためにアクションを起こしている人はみんなメンバー。」と語る。

は募る。「まずは県内の人に戸馳を知ってもらうこと。それから、地元の人が活躍できる場所、宇城市“を”実現したい。最後に若者が楽しめる場所にできれば。」

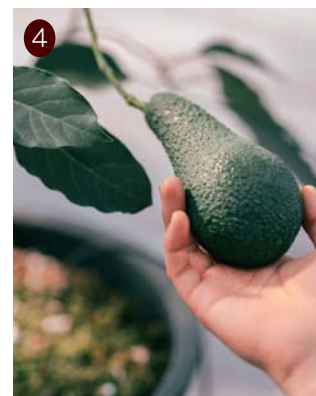
新たな挑戦として、フォトウェディング事業をスタートした。新たな可能性を探り、日

夜仕事に励む中川さんが発する言葉には、力強さがある。柔らかな笑顔が絶えない、宇城市の将来を担う若き生産者だ。

「今の自分があるのも、いろんな人につないでいたから。」と人とのつながりを大切にしている中川さんが仕掛ける今後の戸馳から目が離せない。

出会いが次なる出会いへ

相乗効果が戸馳の未来を可能にする



1 中川さんが手塩にかけて栽培したパッションフルーツ 2 生き生きと育ったパッションフルーツは中川さんの誇り 3 絶品のリリコイバター 4 三角産のアボカド 5 新たに始めたフォトウェディング事業 戸馳島の美しい景色を背景に

中川 裕史

Nakagawa Yushi

三角町戸馳生まれ。洋ラン・ミカン農家であり、Tobase Labo の代表。高校卒業後、最先端の農業を学ぶため渡米。アメリカの大学に留学し、アボカドやパッションフルーツの栽培を学ぶ。帰国後は、栽培した農産物を元に加工品事業を手掛け、その事業は農産物の栽培・加工、フォトウェディング事業など多岐に渡る。



とばせマルシェ

TobaseLabo 主催。絶景のビーチで、絶品グルメを満喫しましょう。

日時 9月18日 10時～15時

場所 若宮海水浴場

詳しくは
こちら▶

